

8/24
9. 2. 2001

安保法案に反対

若者が一斉行動

全国60カ所以上

安全保障関連法案に反対する大学生らのグループ「SEALDs(シールズ)」が呼び掛けた「全国若者一斉行動」が二十三日、各地で行われた。シールズは北海道や愛知県、大阪府、福岡県など六十カ所以上でデモや集会があったとしており、若い世代の反対運動の広がりが浮き彫りになった。参加者らは「法案は戦争への道を開く」「私たちの行動は政権にも影響を与えるはずだ」と訴えた。

東京都港区の青山公園で開かれたシールズの集会には、若者や家族連れが続々と集結。約六千五百人(主催者発表)が渋谷方面に向け、ラップ調の「憲法守れ」「戦争反対」とのコールを上げながらデモ行進をした。

シールズの活動に呼応し、最近、各地で若者らが次々にグループを結成している。沖縄県北谷町では「SEALDs RYUKYU」のメンバーで国際基督教大四年の元山仁士郎さん(ニミ)が「太平洋戦争末期の沖縄戦のことをおじい(祖父)やおばあ(祖母)から聞き、命の尊さを学んだ。法案に反対する」と強調。参加した沖縄国際大二年の名嘉一心さん(なつか)をも「住民を巻き込んだ唯一の地上戦があった沖縄だからこそ、戦争への道を開く法案は絶対に許せない」と力を込めた。